



すばる科学諮問委員会報告

安田直樹 (Kavli IPMU)

委員会メンバー

任期: 2020年9月1日 - 2022年8月31日

相川祐理 (東京大学) 新任

本田充彦 (岡山理科大学) 新任

生駒大洋 (東京大学)

伊藤洋一 (兵庫県立大学) 新任

稲見華恵 (広島大学) 新任

児玉忠恭 (東北大学)

小谷隆行 (ABC)

栗田光樹夫 (京都大学)

宮崎聡 (国立天文台)

守屋堯 (国立天文台) 新任

西山正吾 (宮城教育大学)

濤崎智佳 (上越教育大学)

安田直樹 (カブリIPMU) 委員長

本原顕太郎 (国立天文台) Ex-officio (TAC委員長)

Observers

吉田道利 (ハワイ観測所長)

神戸栄治 (ハワイ観測所)

高見英樹 (ハワイ観測所)

山下卓也 (TMT)

青木和光 (TMT)

関口和寛 (国立天文台)

Sanders, David (UH)



最近の議論項目

- すばる戦略枠 (SSP)
 - Hyper Suprime-Cam (HSC)
 - Infrared Doppler (IRD)
 - Prime Focus Spectrograph (PFS)
- SWIMSの共同利用装置としての運用開始
- すばる夜数を貢献とする Rubin/LSST への参加
- Roman-Subaru協調観測の枠組み

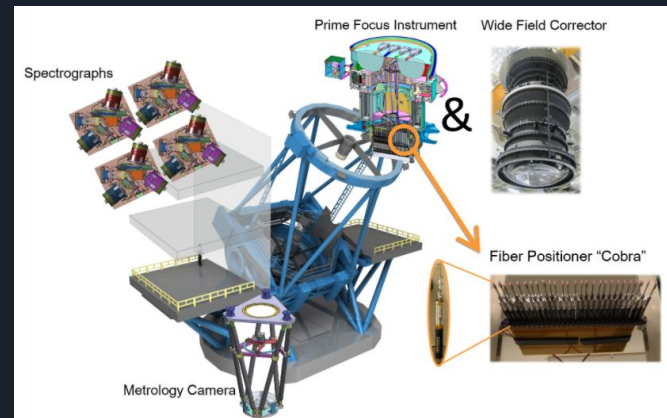


HSC-SSP / IRD-SSP

- HSC
 - Public Data Release 3 の2021年8月公開を承認した
 - 生データは2021年5月から通常の優先期間(1年半)で公開
 - PDRはSSPの条件ではないことを確認した。
- IRD
 - SSPプロポーザルに記載の通り、2年間の優先期間を認めた。

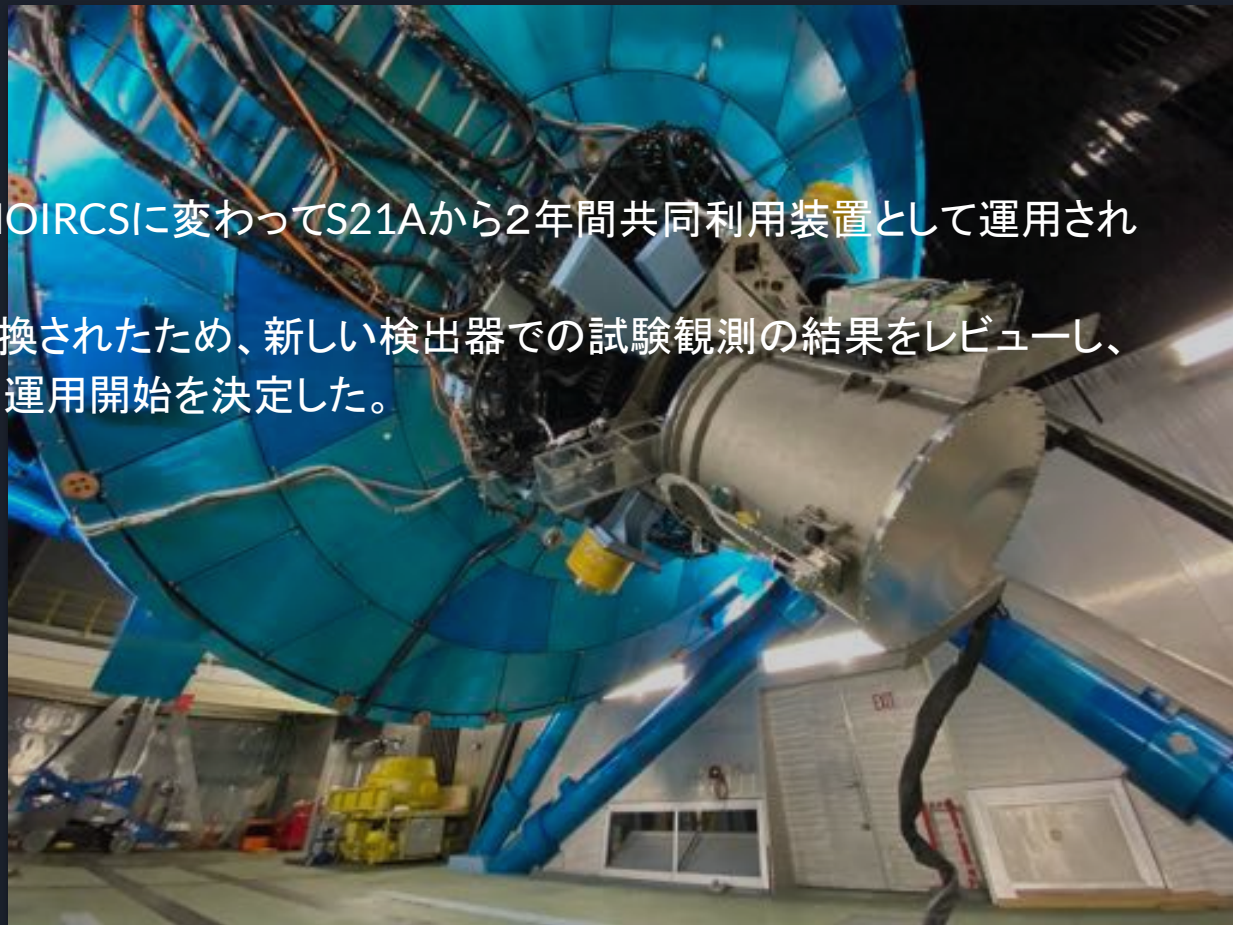
PFS-SSP

- 以下の項目を議論中
 - 観測ターゲットのブロック
 - SSPで観測される天体は共同利用観測ではブロックされる予定
 - PFS collaborationは多くの日本コミュニティの参加を望んでいる
 - SACは様々なケースに対応するため制限は少なくしておきたい
 - 共同利用とのファイバーシェア
 - SSP実行中は共同利用夜数が限定的なため、必要ファイバー数の少ないプログラムの実行に不可欠
 - SSPでの観測効率を最大化する必要もある



SWIMS

- SWIMSはMOIRCSに変わってS21Aから2年間共同利用装置として運用される
- 検出器が交換されたため、新しい検出器での試験観測の結果をレビューし、S21Aからの運用開始を決定した。



LSST (Rubin Observatory)

- 国立天文台とカブリIPMUが中心となってLSSTに参加するin-kind貢献プロポーザルを提出した。
- 大きな貢献がすばる夜数50晩を10年にわたって提供するもの
 - 時間交換枠に準じてUSコミュニティに提供される
- 最大30人程度のPI(データアクセス権)が期待される
 - 選定方法などについて議論中



Roman-Subaru協調観測

- すばるコミュニティはすばる夜数100晩をRoman宇宙望遠鏡との協調観測に使うことに合意している。
- PFS-SSPの終了後に始まる予定だったが、PFS-SSP開始前の観測開始が検討されている。
- SACでは早期観測の可能性、協調観測プロポーザルの審査手順などを議論中
 - 早期観測は認める方向
 - 詳細な科学的レビューはRoman-Subaru Steering Groupに任せ、SACは簡易的な審査を行う。
 - 共同利用にはセメスター当たり最低15暗夜を確保する



まとめ

- すばる望遠鏡の科学運用に関する事項を議論
 - 共同利用からSSPまでの夜数割り当ての枠組み
 - 他の望遠鏡・施設との協力・協調
 - 国際パートナーシップ
- 議論の詳細は議事録で確認できます。
https://subarutelescope.org/Science/SACM/j_index.html
- SACで議論すべき事項があればSAC委員にご連絡下さい。